

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)



Youth Enterprise 2021トレードフェアで本学経済学部 の学生チームが入賞！



活動の概要	Youth Enterprise 2021トレードフェアが2021年11月21日に開催されました。トレードフェアは、国際化・情報化時代に、よりよい社会の実現に向けてアントレプレナーシップ（起業家的行動能力）を発揮できる若者の育成を目的に、2001年より実施しているものです。 今回、本学からは経済学部の鶴飼宏成ゼミの3チームが参加し、全3チームが入賞を果たしました。3チームとも、自分たちのアイデアを実現するために自ら協力企業を見つけ、試行錯誤を重ねた結果、高い評価を受けました。
活動の時期	2021年11月
関連URL	Youth Enterprise 2021トレードフェア

本学からの受賞チーム一覧

●京都府知事賞(社会貢献度が最も高かったチーム)

「すてる責任」をひと手間で

チーム名：スマイクル

<企画概要>

「すてる責任」を果たすために、『油吸ってポイ』という商品を販売します。液体ごみを排水溝へ流す際に、最も悪影響であると言われる”油分”を、ひと手間で取り除く商品を開発しました。専門的な知識を持っている様々な企業様と連絡を取らせていただき、SDGsの達成に力を入れている企業様などからの大きなご協力を承りながら活動してきました。多数の実験や、アンケートの実施、残り汁の数値研究等を行い、商品のブラッシュアップを行いました。今後もより「すてる責任」を果たす効果の高い商品を開発できるように精進して参ります。汚れた液体を排水溝に流すことは液体ごみを捨てていることと同じであるという認識が多くの人に広まり、正しい捨て方で処分することが当たり前になる社会を目指しています。また、商品開発のみならず、広報としてSNSに挑戦しています。液体ごみを正しく捨てることを広める活動自体がとても珍しいため、有効活用していきたいと考えています。



<達成に寄与するSDGsのGOAL>

SDG12（つくる責任 つかう責任）

<連携団体>

株式会社飛球商会
株式会社アイ・イー・ジェー
株式会社エステム
スズラン株式会社

●京都中小企業家同友会賞（ビジネスモデルに新規性や独自性の高かったチーム）

ホットアイマスク×昼寝枕でストレスフリー！

チーム名：eaSe

<企画概要>

デスクワークをする人の目の疲れをケアするために、EYE MAKURAを販売します。複数の企業にアンケート調査を行った結果、デスクワークにより、目に疲れを感じている人が4割ほどいること、疲れのケアをしていない人が約半数いることが分かりました。目の疲れを放置するとピントが合わない、目がしょぼしょぼするといった目の症状だけでなく、目を動かす筋肉の硬直が全身に伝わり、血行不良による肩こりや頭痛などを引き起こすことがあります。EYE MAKURAはヒーターのある機械部分とクッション性のある枕部分の二層構造になっており、目を温めながら昼寝をする時間を提供します。それにより目の疲れから現れる症状の予防と改善を目指しています。また、企業が社員にストレスケアの機会を設けるなど、企業から個人にケアをするように働きかける流れをつくりたいと考えています。



<達成に寄与するSDGsのGOAL>

SDG3（すべての人に健康と福祉を）

<連携団体>

株式会社アピックスインターナショナル

- 異能工房賞（実際に起業するなら応援したいチーム） 及び
- スチューデント賞（出展している学生・生徒による投票で最も支持されたチーム）

ジェンダーフリーでニコニコライフ

チーム名：NICO NICO

<企画概要>

性のマイノリティに関する理解や、性別に関しての”差別”ではなく”正しい区別”があり、誰もがありのままの自分をさらけ出せる、生きやすい社会の実現を目指します。ジェンダー多様性を尊重する人が増えることを目的としています。

①「違いを受け入れる」という考えを持てるようにする教育のための幼児向け絵本の制作、②より多くの方がジェンダー多様性に関する社会課題を身近に感じ、当事者意識を持って課題解決に取り組むきっかけとなるようなグッズの制作、をしています！

<達成に寄与するSDGsのGOAL>

SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）

<連携団体>

株式会社三恵社(絵本チーム)

YOUTH PRIDE JAPAN(絵本チーム)

色-SHIKI-(グッズチーム)

名古屋市立大学生協 滝子キャンパス 山の畑店

丸善 名古屋本店

kanako(グッズチーム)



本学学生がLGBTQ+をテーマとしたオリジナル絵本を保育園・幼稚園等で読み聞かせ



本学の経済学部 鶴飼宏成ゼミの学生たちが、LGBTQ+をテーマとして制作したオリジナル絵本『あおいくんのかみかざり』について、名古屋市内の保育園・幼稚園等で読み聞かせを行いました。

この絵本は、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG4（質の高い平等をみんなに）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）に着目し、「性の多様性に理解のある子どもたちが増えてほしい」という学生たちの想いから制作されたものです。

◆絵本の詳細

『あおいくんのかみかざり』

- ・対象年齢：幼稚園年長～小学校低学年(5～7歳)
- ・発売日：2021年11月10日
- ・価格：2,090円（本体1,900円+税10%）
- ・出版社：三恵社
- ・販売場所：Amazon、丸善名古屋本店、名古屋市立大学生協

・内容：LGBTQ+の中の「T」（トランスジェンダー）がテーマ。小学1年生の《そらくん》が同級生の《あおいくん》がつけていた髪飾りを褒めるところから始まり、一人の男の子が性の多様性に気づいていく物語。



詳細は、以下の報道発表資料をご確認ください。

[学生制作オリジナル絵本\[テーマ：LGBTQ+\]と保育園・幼稚園等での読み聞かせ活動のご案内](#)

※本件は、2022年1月20日（木）のCBCテレビ「チャント！」で放送されました。

名古屋市立大学男女共同参画奨励賞



活動の概要	名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。
活動の時期	2013年以降
関連URL	男女共同参画奨励賞

名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画



活動の概要	<p>2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして―大学で男女共同参画を考える―」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。</p> <p>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。</p>
活動の時期	<p>【男女共同参画宣言】2012年3月</p> <p>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長）</p>
関連URL	<p>男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション</p>

栗原研究室が映画祭で受賞ラッシュ



活動の概要	<p>芸術工学研究科 栗原研究室の作品が、海外の映像祭で多数受賞しました。同研究室は映像作品の制作技術だけでなく、そこで表現される内容/社会的メッセージを大切にしております。車椅子生活の様子を描く作品やLGBTの問題、アダルトチルドレン症候群などさまざまなテーマに挑戦しており、今年度はSDGsをテーマにした作品も多く制作しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.42

本学学生が制作したSDGs関連動画が海外の映画祭で入選



活動の概要	<p>本学芸術工学部の栗原研究室の学生らが制作したSDGsに関連する動画が、海外の映画祭で高い評価を受けました。</p> <p>■South America Awards (STUDENT FILM COMPETITION) 【作品名】「SDGs MAN！」 ※学生映画部門で「最優秀脚本賞」「最優秀編集賞」を受賞</p> <p>■Los Angeles Theatrical release competition & awards finalist 【作品名】「女の子ごっこ (Girl's play)」</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	栗原研究室WEBサイト



ダイバーシティ宣言・行動計画



活動の概要	名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。
活動の時期	【ダイバーシティ宣言】2019年2月 【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで
関連URL	ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした HIV 予防の推進



活動の概要	HIV感染症の予防、セクシュアルヘルスをテーマに研究しています。集団レベルでHIVの予防を推進するためには、感染リスクが高いポピュレーションを見極め、その対象者に効果的な予防介入を継続的に実施することが重要です。日本では、ゲイ・バイセクシュアル男性におけるHIV/AIDS感染拡大が最も深刻であり、彼らへのコミュニティベースの予防プログラムの立案、実施、評価に資する研究を当事者、NGO、行政、医療専門家、研究者のパートナーシップのもと行ってきました。平成28-30年度の厚生労働省エイズ対策政策研究事業では、乾燥血液スポット法(指先にランセット針を刺して取った血液をろ紙にしみこませ検査機関に送り、スクリーニング結果をWEBで確認する検査手法)を用いたコミュニティベースでのHIV検査機会の拡大を行います。
活動の時期	2005年～現在まで
関連する論文	<ol style="list-style-type: none"> 1. Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, AIDS Care, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339 2. Nigel Sherriff, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley, Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention, Health Promotion International, 32(3), 522-534, 2017. doi: 10.1093/heapro/dav096. 3. 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性のHIV・エイズの最新情報の認知度とHIV検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2), 78-86, 2021.
期待される効果、今後の展望	<p>通常の保健医療サービスが届きにくいマイノリティ集団にいかにもアクセスし、必要なサービスを提供していくは大変難しい課題です。</p> <p>エイズ分野では、当事者、NGOが大きな力を発揮し、感染拡大の抑制に貢献してきました。この成果を目に見える形で残せるような、予防対策に資することができるような研究が必要だと考えています。また、エイズ予防の研究や取り組みにおいては、研究者、NGOや行政、医療、ボランティアの協働が鍵となります。研究においても、メンバーそれぞれの専門や能力を最大限に発揮できるチーム作りを重視しています。</p>
所属	看護学研究科 国際保健看護学
氏名	金子 典代
専門分野	HIV感染症、AIDSの予防、健康行動学、疫学



イギリスのブライトン大学との共同研究（英国でHIV検査キットを自動販売機で普及させる取り組みの成功事例の紹介を受けました）

開学70周年記念式典を行いました



活動の概要	<p>2022年2月19日（土）、名古屋マリオットアソシアホテルにて名古屋市立大学 開学70周年記念式典を開催しました。</p> <p>この式典は、開学70周年の節目の事業として、2020年10月31日（土）に執り行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、この日に延期したものです。</p> <p>第一部の記念式典では、学長式辞、来賓祝辞、来賓紹介、交流会副会長祝辞の後、大学紹介映像「70年の歩みと明るい未来」を上映し、続いて吉田和生副学長より開学70周年記念事業等の紹介がありました。</p> <p>冒頭の式辞で学長は、名市大の発展のために必要な3つの要素について梅の成長に例えて話し、名市大を温かく支えて下さった名古屋市や地域の皆さまへの感謝の気持ちと、さらなる発展のための意気込みを示しました。</p> <p>第二部の記念講演会では、国際協力・ジェンダー専門家の大崎麻子氏を講師にお招きし、「SDGsを考える～創造する未来～」をテーマにご講演いただきました。世界全体で注目されている国際目標SDGsとその達成の先にある未来について考えるための貴重な機会となりました。</p> <p>なお感染症対策のため、参加人数や規模を縮小しましたが、記念式典の様子はYouTubeで生中継し、来場者・視聴者合わせ約300名の関係者や市民の皆さまとともに開学70周年の喜びを分かち合うことができました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

本学教員が日本空調システム株式会社のダイバーシティ研修会に講師として参加



活動の概要	<p>日本空調システム株式会社における社内研修会（2022年3月24日開催）に、本学人間文化研究科の宮下准教授が講師として参加しました。当日は、「ワークライフバランスとダイバーシティ～職場におけるダイバーシティ～」というテーマで、普段本学で学生に講義している内容を中心に、約80名の社員の方に向けて講演を行いました。</p> <p>日本空調システム株式会社は、本学のSDGsサポーターとして認定されている企業です。</p> <p>参加者からは、「『知らなかった』ではなく、『正しく知ろうとする』という意識を今後持ち続けていきたいです。」「自分の周囲にもLGBTで悩んでいる人がいるかもしれないと思い、発言や行動には注意しようと思いました。」などの感想が寄せられました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	日本空調システム株式会社



アイデア商品の展示即売会「ユースエンタプライズ・トレードフェア」に参加しました



活動の概要	<p>起業教育の実践発表会として2021年11月21日にオンラインで開催したユースエンタプライズ・トレードフェアの参加者が、2022年3月12日、京都市中京区のQUESTIONビルに集まって、展示販売会を開催しました。本学からは、経済学部3年と4年の学生で組織した「スマイクル」「eaSe」「NICO NICO」の3チームが参加し、各チームとも企業などとコラボして開発したユニークな商品の販売プロモーションを行い、成果を上げました。</p> <ul style="list-style-type: none">●スマイクル：『油吸ってポイ』（「すてる責任」をひと手間で）●eaSe：『EYE MAKURA』（オフィス用品・ほんの一眠り、頑張るあなたに本当の休息を）●NICO NICO：『あおいくんのかみかざり』（オリジナル絵本）、『（自由の薔薇をあしらった）Pullover Sweatshirt』（性の多様性を考える by NICO NICO） <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.44